

西村真次 にしむら まこと 人類學者、文學博士。明治十一年二月二十日、三重縣
生れ。昭和十八年五月二十七日歿（八九—一九四二）。筆名するむ、篆隸
子、裾野鷄、西村醉夢、醉夢生、彌躰庵等。明治二十八年早稲田大學
卒。『東京朝日新聞』記者、四十三年雜誌『學生』編輯、のち早大教
授。

著書 『美文創作要訣』（明治二十二年九月二十日文武堂）、『東
洋人傳』（明治二十四年六月十五日大阪・矢嶋誠進堂書店）、『日本

情史』（明治二十四年七月十六日新聲社）、『青年叢話・中の巻』（西

村醉夢名、合著・新聲社編、明治二十五年二月二十八日新聲社）、『英

詩曲の讀』（同、明治二十九年十月五日參文舎・附續文社）、『血

汗』（同、明治四十年二月十日精華書院）、『紀行文作法』（再版・

明治四十年七月二十日博文館『通俗作文全書』（）、『蟬の研究』（西

村醉夢名、明治四十一年七月九日博文館）、『和歌と俳句』（同、明

治四十一年五月十日博文館）、『爲の一年』（同、大正元年十一月一

十八日博文館）、『新國史觀努力の跡』（同、大正五年六月二十五日富山

房）、『體質人類學（人類學概論第一篇）』（大正十五年六月二十八

日早稲田大學出版部）、『民俗斷篇』（昭和二年一月十五日磯部甲陽

堂『日本民俗叢書』（）、『人類協同史』（昭和五年二月二十日春秋

社）、『文化移動論』（昭和五年十一月二十日ロゴス書院）、『江戸

時代創始期』（昭和六年十月二十二日早稲田大學出版部『國民の日本

史』（）、『文武抗爭史』（合著・雄山閣編輯局編、

昭和八年八月十日雄山閣）、『萬葉集の綜合研究

・第一輯』（合著、昭和十年二月二十日改選社）、



『小野梓傳』(昭和十年十一月、二十日富士房)、『日本人はどれだけの
の専ましく来たか』(昭和十一年十月二十日新潮社「日本少國民文
庫」、改訂『日本人はどれだけの専ましく来たか』十八年十一月、二十
一日「改訂日本少國民文庫」)、『日本建國の研究』(合著、昭和十
一年十一月十一日堂華社)、隨筆『多角鏡』(昭和十二年二月十五日
堂華社)、『文化と歴史』(昭和十二年七月一日人文書院)、『傳統
と土俗』(昭和十五年五月十五日人文書院)、『日本人と其文化』(昭
和十五年八月二十三日富士房)、『日本文化論考』(昭和十六年五月
二十八日厚生閣)、『人類と文明』(昭和十六年九月一日人文書院)、
『日本海外發展史』(昭和十七年二月二十日東京堂)、『故中村吉藏
博士追悼集』(昭和十七年五月一日小林政治編輯)、『支那文化叢書』
(合著・除村一鑿編、昭和十七年六月二十日名取書店)、『南方民族
誌』(昭和十七年八月十五日東京堂)、『歴史と文藝』(昭和十七年
九月十五日人文書院)、『萬葉集傳説歌謠の研究』(昭和十八年六月
二十日第一書房)等。